

C7分解抑制触媒技術

技 - CB2 - 2

技術内容

石油化学装置から副生されるC7以上の重質パラフィンを含んだ石化ラフィネート(C6~C8)を原料とし、長期的かつ安定的に連続運転が可能な触媒の最適化及び制御技術等の開発

特徴

- ・C7ヘビア5%含有原料で触媒寿命2年以上(推定値)
- ・C7分解抑制触媒：低温領域で高異性化 活性の硫酸ジルコニア白金触媒を採用

用途(応用範囲)

C6留分までの異性化反応は固体酸点上において起こるが、C7+留分は硫酸イオンに起因する高酸強度により、重合反応及び分解、コーキングがおこる。このC7分解抑制触媒の利用により、難異性化留分領域での応用が期待できる。

【C7分解抑制触媒技術の運用例】

従来の異性化では触媒寿命が短く、C7+が多く含まれる炭化水素原料では重合反応及び分解、コーキングにより触媒寿命が約1/3になる。

しかし、C7+分解抑制触媒と反応温度制御型ダブル・リアクタープロセスを組み合わせることでC7+を含む重質原料においても長期寿命が期待できる。

